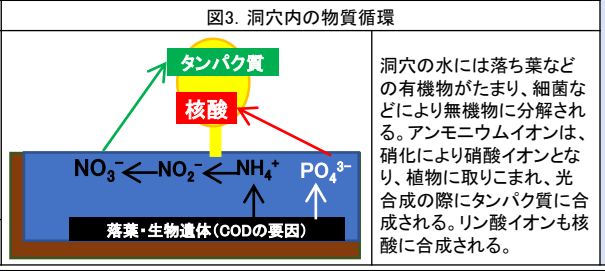
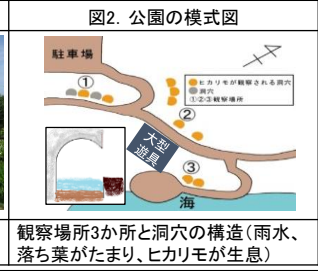


<目的>
平成26年度からの水質調査データからヒカリモが生息する環境の水温、pH、栄養塩類濃度を調べる。

<結論>
 ・ヒカリモの生息する洞穴内の水温は、約4.5～24℃。5月～10月で有機物の分解が活発になり、無機塩類が増加する。
 ・ヒカリモの黄金色の膜が一年中見られる洞穴は「pHが6前後で低い」「水質の変動が小さい(細菌における代謝があまり活発ではない)」「NO₃-Nの濃度が他の洞穴より高い」。
 ・R1に洞穴の水が干上がって以降、pHが低下し、無機塩類の増加している。今後も継続して観察していく。
 参考文献: 日本分析化学会北海道支部編:水の分析 第5版 化学同人 2005.

<背景> ヒカリモは、大きき5μmの葉緑体をもつ淡水性の単細胞生物。水面に立ち上がり黄金色の膜を形成する。



<調査方法>

観察期間は1週間程度毎

- ・気温、湿度、照度計測
- ・水面の写真撮影
- ・水温、pHの測定
- ・膜の顕微鏡観察

月に1度、水質調査

- ・COD
- ・NH₄-N、
- ・NO₃-N
- ・PO₄-Pの測定

<結果> ①ヒカリモの膜があまり観察できない ②ヒカリモの膜が一年中見られる ③ヒカリモの膜が定期的に観察できなくなる

	洞穴周辺	H26.8	H27.2	H27.8	H28.2	H28.8	H29.2	H29.8	H30.2	H30.8	R1.2	R1.8	R2.2
① 膜													
		あり	あり	なし	なし	あり	干上がり	干上がり	干上がり	あり	干上がり	あり	あり
② 膜													
		あり	あり	あり	あり	あり	あり	あり	あり	あり	干上がり	あり	あり
③ 膜													
		あり	あり	あり	あり	あり	なし	あり	干上がり	あり	干上がり	あり	あり

